別記様式第５号

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第767号	氏名	橋口慶一
学位審査委員	主　査　柳原克紀 副　査　川上　純 副　査　中島正洋		

論文審査の結果の要旨

1　研究目的の評価

潰瘍性大腸炎に対する顆粒球除去療法(GMA)の寛解導入効果は多くの研究で報告されており、既存の薬物療法と比べ、副作用が少ないという利点がある。しかしながら、高価で比較的長期間にわたる治療であることから、有用な効果予測因子が望まれる。

本研究では、GMA 療法において、便中 Lactoferrin (Lf)測定が効果予測や効果判定に有用となりうるかどうかの検討を行っており、目的は妥当である。

2　研究手法に関する評価

2011 年 11 月から 2014 年 1 月に長崎大学病院および 5 つの関連病院にて GMA 治療が導入された潰瘍性大腸炎患者 21 症例を対象とした。治療前、GMA 治療 1 週間後、2 週間後、治療終了後の便中 Lf を測定した。また、有効性に寄与しうる臨床病理学的因子について、receiver operating characteristic (ROC)解析によりカットオフ値を算出し、単変量／多変量解析を行っており、研究手法は妥当である。

3　解析・考察の評価

便中 Lf 値は GMA 有効群における GMA 治療前後で有意に低下しており、効果判定の指標となりうる可能性が示唆された。また、GMA 導入 1 週後の Lf 値が高値であることは、導入直後の効果予測因子になりうると考えられた。

以上のように本論文は消化器疾患の研究に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。

（注）報告番号は記入しないこと